

(別添 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価項目

作成日 平成 21年 9月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2770801682		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家田辺		
所在地	大阪府大阪市東住吉区田辺2-11-43 (電話) 06-4399-8121		
評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9チカマンション第三名古屋1109		
訪問調査日	平成21年8月10日	評価確定日	平成21年11月30日

【情報提供票より】 (平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3 階建て	2 ~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (90,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (450,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要 (平成 8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	6名	要介護 2	4名
要介護 3	5名	要介護 4	1名
要介護 5	2名	要支援 2	0名
年齢	平均 86.5 歳	最低 73 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西岡クリニック・東和病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年12月に開設し、4年目を迎えた株式会社ケア21が展開する3階建ての2~3階部分の2ユニット(18人)が共同生活を送るグループホームである。最寄駅まで徒歩10分圏内に位置し、区内には長居公園や桃ヶ池公園がある。ホーム内で体操や飾りの製作などのレクリエーション等、ゆったりと過ごせる環境にある。ホーム職員も定着しており、きめ細やかな馴染みの関係を保ちながら、本人、家族の希望や思いを理解しつつ、入居者本位の生活の支援に努めている。提携医療機関、訪問看護などとの医療連携も構築されており、入居者の健康管理に留意し、迅速に対応できる体制があり、入居者、家族の安心感に繋がっている。日常的に散歩など外出する機会も設けられ、近隣の公園など季節感を体感できる環境である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題であった、現状に沿った介護計画の見直しに関しては、目標設定期間内に評価及び見直しがカンファレンス等を通じて話し合われ、個性のある現状に沿ったものとなっていた。ホーム独自の理念の共有と日々の取組みに関しては、職員で話し合う機会を持ち、理念の共有とその啓発に更なる取組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 前回の評価の際は管理者が作成していたが、今回の自己評価については、評価内容や意義について説明し、ユニットリーダーが中心となり、フロアごとに職員の意見を聞きながら作成に取り組みされた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域包括支援センター、地域ネットワーク委員、法人代表、家族などが参加し、2ヶ月に1回の割合で開催されている。ホームからの行事やサービス内容に関する報告が中心となっている。会議を通じて、地域行事等の情報を入手し、参加できるよう取り組んでいる。ただ、意見の出にくい状況にあり、開催日、時間等再考され、たくさんの方に参加してもらい、多彩な意見をもらえる場となるような取組みに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月に1回、ホーム内での生活の様子、健康状態など、入居者個々の状況を家族に文章で報告している。ホーム便りも毎月作成されている。家族の来訪が比較的多く、その際に意見や苦情・要望の聞き取りを行い、日々のサービスに反映していくように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の散歩等の外出の際にあいさつを行うなど、地域とは日常生活のなかでの関わりを大切にしている。また、地域ネットワーク委員会を通じて、行事やイベントの情報を入手して、夏祭りや落語会、ミニデイサービスへの参加など、地域とふれあう機会を確保している。

評 価 項 目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりのその人らしい生活を支えることを念頭に置いた企業行動憲章8項目を法人理念として掲げ、ホームとしても6項目の運営方針を作成している。	○	ホーム開設時に、6項目の運営方針を独自に定めて実践している。開設4年目であり、「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」の具体的なイメージをもって、理念及び運営方針の整理を行い、今後も地域に根ざした理念の実践づくりに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、各フロアの職員詰所に理念書を掲示し、家族、職員に周知するべく取り組んでいる。	○	月に1回開催される会議等で法人理念、ホーム運営方針にふれ、職員間で理念を共有し、日々のサービスの中で理念が反映され、その実践に向けた取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民によるネットワーク委員会毎年6月に開催され、その委員会を介して地域の情報を得て、行事やイベントに積極的に参加している。また、月に2回地域主催のミニデイサービスが開かれ、ホームとして定期的に参加することで、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価実施の意義は理解されており、前回の評価結果に基づいて改善に取り組んだ事例もある。今回の自己評価については、各フロアリーダーが職員の意見を聞き取りながら作成に取り組まれている。		

事業所名:グループホームたのしい家田辺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。会議には地域包括支援センター、法人代表、家族、地域ネットワーク委員が参加し、ホームの現状やサービスについての報告、情報交換を行い、サービスに生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の申請時や報告書類の提出の際などにホームの現状報告や意見交換などを行っている。	○	日頃より、ホームの運営や取り組みなどについて意見交換するなどの機会を多く持ち、より一層の連携に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、ホーム内での生活の様子、健康状態など、入居者個々の状況や小口現金の収支などについて報告されている。日頃より、家族の訪問も多く、その際に意見を伺うこともあり、情報の共有と共通理解に努めている。また、毎月「田辺便り」を発行し、行事報告等も行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていないが、運営懇談会や家族の訪問時に意見の聞き取りを行っている。不定期ではあるが、法人主導で家族アンケートを実施するなど質の向上をめざす取り組みを図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動については若干行われているものの、退職者は少なく、馴染みの職員による安定した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の入社時研修では、経営理念、会社方針が説明され、組織人としての教育が実施されている。現任職員にも年間研修計画を立て、研修が実施されている。受講者は報告書を作成し、伝達研修も行っている。外部研修の情報を得た際には、管理者より職員に対して受講してもらえよう取組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で施設会議、マナー向上委員会が実施され、管理者参加のもと、研修や情報交換が行われている。また、東住吉区内のグループホームネットワークに参加し、3ヶ月に1回、勉強会や意見交換を行っている。今後、ネットワークを通じて、職員間で施設見学の実施等、交流を図りたい考えである。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に徐々に馴染んでもらえるように体験入居を行ってもらえる仕組みがある。体験入居を希望されない場合には、入居前に本人、家族に対して十分に説明し、安心してサービスを利用してもらえよう説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃より、入居者は人生の先輩であるとの意識を持って接している。入居者の得意な分野では、職員がともに行い、教えてもらいながら、穏やかに過ごしてもらえよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの意向や希望について入居前に聞き取り、情報収集することによって、その人らしい生活が送れるよう努めている。また、日々の会話の中から本人の意向を感じとるよう努めており、入居者本位となるよう支援することを大事にしている。実現が困難な事は、本人、家族と話し合い、行動の観察、表情から意向を汲み取るように働きかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向を確認し、家族、介護支援専門員、介護士、看護師などの他職種が集まり、サービス担当者会議やケアカンファレンスの場で話し合われている。本人が望む暮らしのための課題と目標を明確にし、サービスのあり方をチームで検討して、入居者の状態や要望に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の評価を行い、日々のケアの中で観察した生活の様子や身体状況の変化などが話し合われている。また、見直し期間前に変化が起きた場合は随時カンファレンスを開き、現状に沿った介護計画を作成している。見直した計画表については、家族へ説明を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援は本人や家族の要望に対して、臨機応変に対応している。また、医療との密な連携体制を整えており、随時及び定期的な診療、訪問看護の利用、早期退院の支援など必要に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による定期的な往診の受診など24時間の協力体制が構築されている。また、本人、家族の希望する馴染みのかかりつけ医や医療機関を受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として重度化に関わる指針を定め、入居前、また体調の変化時に家族に説明し、話し合う機会を設けている。ホームとして看取りの経験はないものの、終末期ケアを実施したことがあり、今後も継続して支援を行ってきたい考えである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等は鍵の掛かる棚に適切に保管されている。入居者一人ひとりの状態や気持ちに沿った言葉づかいや対応に努めている。また、マナー向上委員会を中心とする法人研修も実施されており、伝達研修等で職員に意識付けを行っている。排泄、入浴時は特にプライバシーの確保に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは定まっているものの、必ずしもとらわれることなく、可能な限り散歩や買物、入浴など入居者、家族の希望を尊重し、柔軟に対応している。		

事業所名:グループホームたのしい家田辺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提携の給食会社がメニューを作成し、職員が調理している。盛り付けや配膳、下膳などでは、入居者の状態に応じて役割を持っていたり、リクエストメニューと題して入居者の要望を聞き取って献立に反映する仕組みもある。	○	訪問調査時は職員の人数が少なかったこともあろうが、3階のみで調理し、2階へは配膳されていた。食事は入居者にとって準備から下膳までの過程を楽しみととらえ、役割を持ってもらいながら五感を刺激するという観点からも、各フロアで調理することに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴を基本として支援している。希望により、毎日入浴している方もあり、ホームとして柔軟に対応している。入浴を拒否する入居者に対しては毎日声かけを行ったり、入浴時間を変更するなどの工夫した支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできる事を大切にし、体調や状態に合わせて楽しみごとや、気分転換活動への支援をしている。。日常的な散歩や近隣への買い物と中心とした支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者からの希望は少ないものの、近隣の公園、買い物、喫茶店に行くなど日常的に外出する機会を設けている。また、お寿司などの外食や季節を感じてもらえる場所に出かけるなどの支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関前に関しては安全面の配慮から施錠している。2、3階の入り口部分は昼夜とも鍵はかけておらず、自由に行き来できる状態にある。職員は常にフロア全体が見れるように注力している。	○	入居者の安全面からも難しい問題ではあるが、鍵をかけることが恒常化することを問題とし、鍵をかけないケアの実践をめざし具体的な工夫に期待したい。

事業所名:グループホームたのしい家田辺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや緊急連絡網を整備している。年に2回消防署の協力のもと避難訓練の実施や消火器の使用方法の確認等行っている。	○	夜間時や職員が少ない場合を想定した避難訓練の実施が望まれる。また、地元住民の参加する避難訓練を実施することにより、地域との協力体制の構築の一助にもなるため、日頃よりホームの存在を認知してもらえるよう、より一層地域との交流を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社による栄養のバランスに配慮したメニュー作りが行われている。食事摂取量や水分摂取量は記録しており、少ないようであれば適時声かけを行い、十分な水分を摂取していただくよう援助している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアにはソファ等が配置されている。季節を感じてもらえるように、入居者と一緒に作った花のモチーフを飾り、写真が掲示され生活感のある居心地の良い空間作りに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、毎日職員によって掃除が行われており、清潔に保たれている。入居前の使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んでもらえるように働きかけている。各居室には家族の写真などが飾られ、個々の好みのカーテンを使用するなど居心地の良い空間作りに配慮されている。		

※ は、重点項目。